

関西・以西ブロック会議報告

- (1) 9/2～3、鹿児島県鹿児島市ホテルレクストン鹿児島にて開催されました。今回は鹿児島くみあいチキンフーズ株式会社、かごしま有機生産組合受入での開催となり、参加者は総勢 64 名、参加産地は 22 産地となりました。
- (2) 佐藤副ブロック長（やさか共同農場）の進行で、酒井関西・以西ブロック長（長有研）、中馬鹿児島くみあいチキンフーズ代表取締役社長の挨拶のあと開会されました。生消協、連合会、ジーピーエス、パル・ミートからそれぞれ方針・実績説明の後、エコ・チャレンジ基準見直し報告として那須産直部長から基準見直し論議の経過や、見直しのポイント、残された課題などについて報告がありました。
- (3) 産地報告では、鹿児島くみあいチキンフーズ株式会社の概要や鹿児島若鶏のこだわり（飼料は抗菌性物質無添加、自然の光と風の入る鶏舎による飼育）、2018 年度に開催した公開確認会での気付きなどについて生産事業部小濱係長より報告がありました。
- (4) その後、かごしま有機生産組合大和田代表より「有機農業ひとすじに 35 年」と題し講演がありました。かごしま有機生産組合は平成 30 年度未来につながる持続可能な農業推進コンクールにて農林水産大臣賞(有機農業・環境保全型農業部門)を受賞しています。組織の沿革から、概要、品目部会の構成、支部会、直営農場の設立、新規就農者支援の取り組みや直営店としての「地球畑」の運営、加工品から海外輸出の取り組みなど、設立からこれまで取り組まれたことについて広範囲にわたってお話がありました。「地域で生産された野菜を、地域に住む人たちに食べてもらいたい」「直営店を始めたのは消費者と直接的なコミュニケーションをとりたいため」などが語られ、参加者からは県内と県外の販売割合や、有機農業支援センターの稼働状況などについて質問がありました。
- (5) 翌日は産地視察として、鹿児島くみあいチキンフーズ川内食品工場とかごしま有機生産組合喜入農場の 2 グループに分かれそれぞれ視察しました。川内食品工場では視察鹿児島若鶏の解体から製品まで行われており、モモ肉、ムネ肉、手羽関連の解体が機械化されていること、全ての製品にロット番号で管理されていることでトレーサビリティがしっかりされていることを確認しました。喜入農場では、台湾・ベトナムの海外実習生と独立を志す研修生が作業しておりオクラ・ツルムラサキ・ネギ・クウシンサイなどの圃場を視察しました。かごしま有機生産組合の内規で「有機 JAS 認証での使用可能資材も不使用」などについても説明がありました。
- (6) 視察後、「地球畑カフェ草原をわたる船」にてかごしま有機生産組合の食材を使用した昼食を取り、和田幹事（大紀コープファーム）のまとめの後、解散となりました。また、酒井ブロック長より 2020 年度開催地として和歌山県・紀ノ川農業協同組合を予定する旨報告されました。

